

第1回二戸市総合計画審議会 議事録（要旨）

開催日時：令和2年11月9日（月）午後1時30分～2時50分

会場：市役所1階会議室

【出席委員（敬称略）】

久慈 浩、川上 隆、中田勇司、生内雄二、佐々木春彦、馬淵貴尋、高橋美佐子、浪岡幸子、一本木哲男、坂本敏美、高橋英司、戸来守和、古里政志、太田郁夫、下館光弘、成田耕一郎、荒川愛子、青谷耕成、澤村郁子、野崎芳宏、佐々木千聡、黒沢一史、小保内威彦、小軽米健太

【説明のため出席した職員】

藤原淳市長、大沢治副市長、鳩岡矩雄教育長、田中館淳一総合政策部長、久慈清隆総務部長、小野一浩健康福祉部長、佐藤春彦産業振興部長、石村一洋建設整備部長、山本進浄法寺総合支所長、玉懸邦将教育部長、工藤博幸総合政策部副部長兼政策推進課長

【会議の概要】

◎開会に先立ち、出席委員の紹介と、市側出席者の紹介、欠席委員の報告

1. 開会
2. 委嘱状の交付
3. 市長あいさつ

第2次二戸市総合計画は、人口減少が進む中で、平成28年、「30年後の未来像」として、元気で生きがいをもって暮らせるまちづくりの実現に向け、前期5年と後期5年の基本計画、10年間の基本構想を掲げたところ。前期計画の中では、平成28年のいわて国体の成功に向け、市民一丸となって取り組み、町の中では「2door」のオープンや九戸城エントランス広場の整備があった。また、二戸市の中で誰もが認める、九戸城跡周辺地域、金田一温泉周辺地域、そして天台寺周辺と漆という、大きな歴史遺産をもつ3カ所のまちづくり一つひとつが見える形になってきたと実感している。

産業においては、世界一の日本酒、あるいはチョコレートなど外国から高い評価をいただいた製品、またブロイラーをはじめとする畜産業など、地域をけん引する企業の皆さんが元気に二戸市を引っ張っていただいた。あるいは、果樹や野菜などにおいても、挑戦する若者が増え、一つの大きな励みになっている。また、防災、子育てや教育、そして私たちが一番苦手だと言われている情報発信がだいぶスムーズになったととらえている。これらを通じて言えることは、市民、団体、企業の皆さんが、それぞれ先頭に立って、まちづくりや産業の振興に取り組んでいただいているということ。市ができることは、これらの皆さんが活躍できる場や環境づくりではないかということで、今、ようやくそれが回りだしてきたと思っている。

一方で、旧岡本小跡地の活用や、カーリング場整備検討など、あまり進展の見られなかったものもあり、大変申し訳ないと思っている。また、公共交通等においても、本当に皆さんが待ち望んでいるところにもう一歩踏み込んでいけずにいるところがあり、これらについては今後、選択と集中を基本にまちづくりを進めていかなければならない。また、後期基本計画における大きな課題の一つに新型コロナウイルス感染症対策が立ちふさがっており、一日も早く市民生活を取り戻すことが大事と考えているし、保健福祉や医療についても、今後ますますの高齢化の影響が考えられる。子育てについても、なかなか人口が増えない中で、子育て世代の皆さんを励ましながら環境整備をしていくことが大きな課題。いずれ、産業や地域、防災の面などでも若者がどんどん活躍していけるまちづくりを進める必要があると考えているので、審議会委員の皆さんも、ご忌憚のないご意見をお願いしたい。

4. 議事

（はじめに）二戸市総合計画審議会について（事務局説明）

◎次に、市長進行のもと、会長、副会長を選出。事務局案として、会長に久慈浩委員、副会長に中田勇司委員を提案し、承認を得た。

(会長あいさつ)

このたび、本審議会の会長を務めさせていただくことになりました、久慈でございます。

私のほうから、一言ごあいさつ申し上げます。さて、平成 18 年 1 月、旧二戸市と浄法寺町が合併し、新生二戸市が誕生してから、15 年を迎えようとしている。市の行政運営の基本的方向性を示す第 2 次総合計画も、5 年目の中間年を迎え、後期 5 年間の基本計画を策定する。今もなお人口減少が進み、また今年、新型コロナウイルス感染症の拡大により、さまざまな場面で大きな影響が及んでいる。このような世の中の動きにも対応しながら、市の政策を進めるために、皆さんと一緒に活発な意見交換がされるよう、尽力する。委員の皆さんにおいても重要な機会であるので、ぜひ忌憚のないご意見をお願いします。

(副会長あいさつ)

会長を補佐し、しっかり役を務めさせていただく。どうぞよろしくお願いいたします。

◎会議の議長を、久慈会長に交代。

○久慈会長

それでは、引き続き議事を進めてまいります。委員の皆さんのご協力をお願いします。

議事の(2)二戸市総合計画について、(3)前期基本計画の評価ならびに後期基本計画の策定方針について。以上 2 つについては関連があるので、事務局より一括で説明をお願いします。なおこの後意見交換があるので、質問や意見はその際にお受けする。

(事務局説明)

○久慈会長

それでは、議事の(4)意見交換にまいります。

先ほど事務局が説明したとおり、平成 28 年度から開始している第 2 次総合計画は、本年が折り返しの年である。これまでの取り組みと、今後 5 年間の方針についての説明だったが、佐々木春彦委員はどのような印象をお持ちになったか。

◇佐々木委員

トップバッターにご指名いただきありがとうございます。どのような印象とのことだが、今般のコロナウイルス感染の影響で、国民のライフサイクル、ライフスタイル、かなり変わったのではないかと考えている。私はコンビニエンスストアを経営しているが、影響を受けている。また飲食店においても、かなりの影響を受けていると思う。今まで人と人が接して仲良くやってきたのが、それがいけないというような、今まで培われてきた文化を覆されるような気がしてならない。その中で市の総合計画を立てていくとなると、今までの前期基本計画は何もないところでのスタートだったと思う。今後の計画にもその辺の視点も加味していかなければならないと思っている。

○久慈会長

今回の審議会委員の皆さんは、分野や職業、お住まいの地区など、幅広い方々がそろっているので、ぜひ、普段の取り組みなどを通して感じていることなど、ご発言いただきたい。川上委員は、平成 30 年から二戸市ふるさと支援アドバイザーとして活動されているが、感じていることなどありませんか。

◇川上委員

この計画がスタートしたときは存じ上げていなかったのだが、その後、総合計画推進委員会にオブザーバーとして何回か参加させていただいた。事業にすると 700 以上あり、毎年具体的な数値をとりモニタリングをするというのを初めて知ったところで、改めてこの総合計画を作る段階での議事録を拝見したところ。久慈会長が議長を務められていたようだが、毎回時間が大幅にオーバーするほど活発な意見が出され、タイムリミットギリギリまで議論を続けて計画が作られたというのを見て、本当に、市民と行政が一緒になって作った総合計画だったんだと改めて思った。だからこそ、アクションプランを作って 1 年ごとにモニタリングをして評価と検証を繰り返しているというのは非常に素晴らしいと思う。例えば、公民連携まち再生事業として天台寺や九戸城跡、金田一温泉での事業は本当に目に見えて進んでいると感じるし、市民の方々も参加し始め、いい形になりつつあると思う。これまでの 5 年間は、「次代に紡ぐふるさとづくり」の目標達成に向けたインフラを作った 5 年間であったと思う。今後は成果を出す 5 年間になると思っている。アフターコロナや SDG s の考え方も取り入れなければならないところだが、私が一番評価しているのは、稼ぐというところの政策を強化したことで、若い生産者や経営者が一生懸命頑張っていると思っているところだが、これか

らの5年で成果を出すために、もう一步踏み込んだ形で展開していかなければならないのではないかなと言
うところだと思っている。特に観光・交流やブランドづくりの点でいうと、こちら側だけの思いだけで売り
込もうとしても、なかなか市場は受け入れてくれません。やはり市場に商品やサービスとして出して、そこ
でもまれたり評価されたりして、それが生産者などにフィードバックされるという、いわゆる PDCA サイクル
で改善していくことで初めて市場で競争力がつくと思っている。そういう意味で、今後5年間はそのため
の商品や組織、人づくりを進めていってほしいと思っている。

◇生内委員

今我々がやらなければならないこと、特に私の立場としては、次の発信をするために生き残ること。皆さん
が思っている以上に、コロナの影響は二戸市に大きく表れている。倒産などは出ていないが、企業へのダ
メージを与えている。我々は、30年後も二戸が元気でいられるよう、商工業が生き残っていくための方策を
とっていかなければならない。それは商工会の使命だと思っている。そしてやはり人口がかならず減るとい
う現状もはっきりしている。そうした中で次の5年間には、ある程度適正な費用をかけて最大の効果を発揮
できるよう優先順位をつけて、着手していくということが大事だと思う。市の事業としてまんべんなくとい
うのも考えなければならないが、このままだと30年後、事業承継もできなければ元気な子どももいなくなる
と思う。厳しい決断になると思うが、皆さんも一緒に、先を見て決めていかなければならないと思う。適正
で最大の効果を発揮できること、それが一番。

◇中田委員

二戸市はいろいろな意味でインフラには恵まれていると思う。30年前、周りの市町村と連携していいもの
を一つの束にして活力ある県北地域にしようと、カシオペア連邦を建国した。今一度、観光という立場だけ
ではなく言わせてもらえれば、まだまだ二戸がとんがった感じで強く立っていかないと、周りの市町村も寄
り添ってくれないのではないかとと思っている。近隣3町村の特徴もあるが、もっともっと二戸が力強く、熱
く盛り上がっていかないと、一戸も九戸も軽米も、周りも一緒になってまちづくりを進めようということに
なりにくい。新幹線や高速道路などアクセスの良さを生かし、首都圏や地方都市との行き来ができる北東北
の中心になっていけると信じている。今はコロナ禍で観光の面は非常に厳しいが、GoTo キャンペーンの利用
などもあり、コロナのリスクも感じつつではあるが、人の動きはある。今後は、人の価値観として観光は大
きなウェイトを占めると思う。おいしいものや体験、人との交流、ふれあいというところをしっかりと進めて
いけば、人も必ず戻ってくると思っている。外国人にとって、日本の価値を体感するために、大都市ではな
くもっと奥に行ってみたいという考えがあるそうなので、二戸市のコンテンツも十分実現できるポテンシャル
がある。そういったこともふまえて、後期基本計画では総花的なところだけでなく、驚きを持たせるような
ものを入れ込んでいく必要があるのではないかとと思っている。

○久慈会長

その他、農業団体の方や若い方、老人クラブの方も来ております。皆さんから何かありませんか。

◇小軽米委員

まず、二戸市の総合計画、最近ではコロナ対策を講じたイベント開催など、日ごろ二戸市には感謝してい
るところ。私は最近、浄法寺地区を盛り上げようと若い市民有志で「きゃばまちらぼ」という団体を立ち上
げた。きっかけは、公民連携まち再生事業で天台寺周辺地区を盛り上げるためにという話をいただいたこと
で、自分たちが欲しいと思うものを何年かかけて煮詰めていこうということで集まったのだが、実際にはて
んだいじのことをメンバーがあまり知らず、話し合ってみると図書館が欲しいとか、病児保育が欲しいなど
と言う話に流れてしまい、人づくりに意識を持っていくのに苦労している。しかし、地域の人が自分たちの
地域を盛り上げるチャンスだと思って取り組むために、ただただ有志だけのものにしてはいけないと感じて
いた。そこで、浄法寺でもいっぱい人を集めることができるということを実感してもらいたく、11月1日に
浄法寺運動公園でイベントを開催した。体温を測って来場した人の数はおよそ400人で、出店に協力してく
れた人も50人を超え、大盛況となった。これからもメンバーに公民連携の考え方を理解してもらって、いろ
いろ意見を出してもらえるようにしていきたいと思っている。なかなかその理解をしてもらうという部分が
難しいと思うこともあるが、絶対おろそかにできない部分だと思うので、これからも少しずつ進めていこう
と考えている。また、総合計画においても、人口減少に歯止めをかける、人口減少に対応するといった2つ
の視点があるが、私が二戸市にこうなってほしいと思うのは、「最高に古くて最高に新しい」ということ。テ
クノロジーの目覚ましい進化に対応できる市であってほしいし、大学生が仮想通貨やアプリなどを作ってい

るのを教えてもらったが、若い人を呼び込むためには、大学生のアイデアレベルに自分たちが達していくことも必要だと考えている。また、若者の間でローカルブームが進み「古い田舎」に注目が集まっていることから、日本の9割は田舎だと思っているが、その中でもどれだけできた田舎であるために、テクノロジーをフルに生かし、若い人たちが暮らしやすさと歴史にプライドを持てる環境づくりができたらいいのかなと思う。テクノロジーは、田舎であればあるほど効力を生み、都会ではさほど効果が生まれにくい。テクノロジーを駆使しながら歴史の深い街であれば、人も多く来てくれるのではないかと。天台寺や九戸城跡でのまちづくりなどさまざまな事業があると思うが、一本筋の通ったものを示していけたらいいのではないかと。また私は障害福祉施設を運営しており、利用者の自立支援につながる事業を行っているが、活躍の機会がなかなか見つけられない。人口減少の分野においても、障害を持った人の活躍の場があれば必ず力になると思う。SDGsでも多様性の尊重に向けた目標があり、福祉分野との連携もその目標達成につながる。

○久慈会長

大変すばらしい発言だった。行政側の考えを後ほど聞きたいと思っている。

◇小保内委員

私も二戸市に帰ってきて腰を据えて働くようになって3年ぐらい経つが、二戸市の情報発信は努力していると思っているし、新聞掲載も多いと感じていた。今私が気にしているのが、今の子どもたちが二戸に戻ってきてくれるのか、そして将来、二戸に戻ろうと考える若者が、夢が見られるまちになるのか、ということ。私の子どもは今、地域愛や郷土愛を育てる教育が良く行われていると感じている。小中学校、高校で学ぶ機会があり、今のコロナ禍においてもよりそれが感じられる話を聞いて、非常にうれしく、心強く思っている。その上でやはり、しっかりとした教育が行われているということは、移住定住に向けてもアピールポイントになると思っている。二戸市に住めば、このような教育が受けられるということで、安心して二戸市で生活できますよ、というPRができると思う。子育て世代に向けたしっかりとした発信を、教育委員会中心に行ってもらえたらと思う。

○久慈会長

それでは、行政側から今までの答弁をお願いします。

□総合政策部長

お手元に、総合計画10年間の基本構想と5年間の前期基本計画について掲載した冊子をお渡ししている。薄いけれどもいろいろ詰まっております、我々もこの中に掲載した事業を進めてきたわけだが、先ほど佐々木委員からもあったように、後期基本計画においては新型コロナ対応をはじめとして4つの視点を取り入れなければならないと考えている。全世界が目指すSDGs、ソサエティ5.0の動きに合わせたICT推進、また、国は今、財政状況が厳しいことから交付税を削減しようとしており、その分市町村が借金してほしいなどというような動きがあることなどをふまえ、持続可能な行財政運営を行わなければならない。その中で、川上委員からは一歩踏み込んだ内容をというご意見、生内委員からは適正な予算で最大の効果をというご意見、中田委員からは力強さと広域的連携、小軽米委員からは公民連携を意識した内容、最高に古くて最高に新しいまちづくりといったご意見をいただいた。今、市でも光ファイバー工事が進んでいるし、小中学校のGIGAスクール構想に向けた整備も始まっている。そして、SDGsに掲げる多様性をもって対応していく。小保内委員からも教育をしっかりとというご意見をいただいたが、今まさに進めていこうとしている。行政だけではなく、皆さんと一緒に考えていって進めていきたいと考えているので、今後も一層のご協力をお願いいたします。

□市長

今日はありがとうございました。今日、お話しにならなかった方においても、意見書を同封しているので、後日の提出をお願いしたい。それぞれの分野の代表であるので、必ずお考えになっていることがあると思う。災害やまちづくり、体育振興などぜひお聞かせいただきたい。川上委員もこれまではインフラ整備の5年間だったとおっしゃったが、今後より厳しくなる財政をいかに活用し、人と人の交流につなげていくかというのが非常に大切だと考えている。今まで区画整理でも、280億円ぐらいの予算でスタートしたものが、今は400億円ぐらいまでふくらんできている。やはり、できるのを待つというのではなく、できたところから積極的に活用しながら、人の交流や歩いてまわられるにはどうしたらいいか、などを工夫していく必要がある。大改修が完了した天台寺も、漆と絡めながら雰囲気を出していかなければならないと考えていた。また、生内委員の適正な予算で最大の効果、選択と集中というようなご意見についてもその通りであるが、産業、福

社、教育など、それぞれの面で今これが絶対に必要だというような意見が出されたとき、それをどうやって選択していくかというのが難しい局面に立たされると思う。保健福祉の現場で働く人が減少しても、支援を必要とする人は増え、各施設では抱えきれない状況になったとき、どう対応するのかということになるが、そこは医師の先生にご相談させていただくなどしながら、乗り越えていかなければならないと思う。中田委員の広域連携というご意見についても、まさに今、一戸町さんは御所野遺跡の世界遺産登録が期待されるし、先日、漆の技術を含む「伝統建築工匠の技」がユネスコ無形文化遺産登録への勧告があったところだが、漆については八幡平市との日本遺産「奥南部漆物語」での連携などもある。また今、野田村から八幡平市につながる道路整備についての連携の話もある。広域的に人が動き出せば、いい場所が必ずできる。そのいい場所を作って、お出迎えしたいと思う。それから、インバウンド対応の一つとして、民間企業によるフードダイバーシティ宣言というものも行われているので、とんがった部分として生きてくるのではないかと。小軽米委員のご意見もまさにその通り。商工会の皆さんからも「古いものを古いままにしていれば、いつか廃れる。新しいものを新しいだけにしていれば、薄っぺらい。古いものに新しい発想を加えながら商品をつくる」というお話をいただいたことがある。まさにまちづくりにもその考えだと思っており、天台寺や九戸城跡などの古いものを生かしながら、皆さんがどんなことを望んでいるか、話し合っていけたらいいと思っている。テクノロジーの発展についても、若手職員も率先して皆さんと一緒に考えていくよう、指導していきたい。社会福祉についてもその通りであり、社会の構成員の一人として、一緒に活動していくことが大事だと考えている。小保内委員の教育についてのご意見は、やはり教育長からのご答弁が良い。

□教育長

私のほうからは教育の面についてお話ししたい。小保内委員から激励、後押しといえるご意見をいただき、ありがとうございます。私どもとしては、今後二戸を離れる子は多いだろうという中でも、私たちの生まれたまちはいいところだったと思ってもらえるようになることが大事だと、常日頃思っていた。そこで立ち上げたのが、「槻蔭舎きぼう塾」で、10年目を迎える。郷土理解、郷土教育とともに、進路選択のきっかけにしてもらいたいと始めた事業だが、うち、春風亭昇太さんからは今まで何度か、九戸城跡についての講演をいただいてきており、参加した中学生からは「九戸城がこんなにすごいところだとは思っていなかった。私の住むまちにこんな素晴らしい史跡があるなんて」という感想をもらった。昇太さんをご存じのとおりお忙しい方なので、なかなかお呼びするのが難しいところだが、二戸であればいつでも伺うと行ってくださっている。そのぐらい、良い関係性を築くことができている。また、学力向上に向けては、東京学芸大学との連携が10年目となる。この中では、小学校英語教育学会の会長である粕谷恭子教授をお招きして授業を行ってきた。粕谷先生にも、岩手県であれば忙しくて行けないが、二戸市であれば行くと言ってくださっている。そういった意味ではとがった部分であると、私たちも自負しているところであるので、これからも力を入れてまいりたい。なお昨日、槻蔭舎きぼう塾の事業の一つである、金田一の蓑ヶ坂トレッキングを開催した。姉滝やリング畑、そして蓑ヶ坂の頂上から馬淵川が悠然と流れているところを見て、こんなにいいところが二戸にあるのか、と中学生が感動していた。また、転勤族のお母さんも二戸のことを知りたいと親子で参加した。このような事業を、一般の方にも広げていきたいと考えている。いずれ、市民の皆さんの教育に対する思いにこたえるように、教育委員会としてもしっかりと努めていきたいと思う。

○久慈会長

他になれば、これで議事を終了します。皆さんにおかれては、総合計画の冊子にお目通しいただくよう、お願いする。ここまで進行にご協力いただき、ありがとうございました。

◎最後に、今後のスケジュールと意見書の協力依頼について事務局より説明

5. 閉会